南の国の真夏に挑む体験の旅

「友好の町」沖縄県本部町との間で平成3年から行われている親善交流事業は、今年で21回を数え「南の国の真夏に挑む体験の旅」として、6月27日から7月1日までの日程で町内5校の小学6年生17名と随行4名が本部町を訪れ、南国沖縄の暑さと文化を体験しました。本部町での思い出を、参加した児童の感想文で紹介します。

「沖縄旅行での思い出」
幾寅小学校　下家　多稀

6月27日、17人の仲間とともに沖縄県本部町へ出発しました。今回の「体験の旅」で、印象に残ったことや楽しかったことについて書きたいと思います。

はじめにホームステイについてです。僕は島袋栄輝君の家に明日翔君と泊りました。栄輝君の家に着くとすぐに海へと向かいました。海はエメラルドビーチよりきれいで、魚もたくさんいました。栄輝君は泳ぐのがすごく上手でした。家に帰ってから3人でお風呂に入りましたが、中がすごく広く、お湯もシーサーの口から出ていて、とてもおもしろかったです。夕食は、ピザやヘチマを出してくれて、僕は、ヘチマがたわしになっているイメージだったので、おいしいのか気になりました。その他にも、魚の刺身などを出してくれて、北海道の魚とは食感が違いました。全部の料理がとてもおいしかったです。夕食後に、栄輝君が三線を教えてくれたので、僕もチャレンジしてみましたが全然ひけませんでした。栄輝君はとても上手に素早くひいていたので、本当に感動しました。

△１日目歓迎会で披露したヨサコイ

夜は、かやの中で寝ることになりました。はじめてのことだったので良い経験ができました。朝起きてからは栄輝君のお父さんといろいろな話しをして、栄輝君の家で飼っているニワトリはシャモで、戦わせる鳥だと言っていました。写真もとってもらい、朝食もとてもおいしい物ばかりでした。栄輝君や家族のみなさんにはとてもお世話になりました。ありがとうございました。

次に平和祈念資料館へ行って感じたことです。僕達は、沖縄県平和祈念資料館やひめゆり平和祈念資料館に行きました。そこでは戦争中に使っていた物や洞くつがありました。僕が物に驚いたのは、戦争当時に沖縄の人が着用していた服や、鉄砲で打たれて亡くなった人の写真などがあって悲しい気持ちになりました。その他、ひめゆり学徒隊で亡くなった人の写真などが展示してありました。あんなに多くの人達が亡くなっているので、悲さんな戦争は二度と繰り返してはならないと思いました。平和の礎には、多くの沖縄戦で亡くなられた人達の名前がきざまれていて、北海道からもわざわざ戦争に行っている人がいたので、本当に心が痛みました。

今回の旅では、本当にたくさんのことを体験することができました。この貴重な機会を与えてくれた関係者のみなさんに感謝しています。本当にありがとうございました。また機会があったら沖縄へ行ってみたいと思います。

「最高！沖縄」
幾寅小学校　小林　莉子

私にとってこの旅行は、楽しいこともあって、沖縄であった戦争についてもくわしく学習できた大切な旅行でした。

まず、バナナボートです。私は水が苦手で最初は落ちたりしないか心配でした。でも実際に乗ってみたら、スピードがすごく出て、だんだん沖の方に行くとジャンプをして、まるでイルカになったみたいで楽しかったです。でも泳げたらもっと楽しいと思いました。

△エメラルドビーチでの水泳体験

次に、ホームステイです。私は仲間彩夏ちゃんの家に泊まらせてもらいました。まず、こうり島に行きました。そこには二年前ぐらいに橋がかかったそうで、その橋が無かったら一時間ぐらいかかって本部町に行ってたのが十分ぐらいで行けてとても便利でした。次に夜ご飯にバーベキューをしてもらいました。沖縄そばやぶた肉、牛肉を焼いてくれました。沖縄そばがもちもちしていてすごくおいしかったです。他に彩夏ちゃんの家に送ったジンギスカンのたれをつけて食べていて、「おいしい。」と言ってくれて送って良かったなと思いました。

その後、花火をして遊びました。彩夏ちゃんの家の庭はすごく広かったです。私は彩夏ちゃんとせんこう花火をしたり、ふき出し花火をしたりしました。すごくきれいでした。でも、いきなりうち上げ花火が「パーン」と鳴って、びっくりしました。

その後、彩夏ちゃんのお母さんやお父さんに北海道弁を教えてあげました。「ばくる」や「かでる」の言葉を教えてあげました。彩夏ちゃんのお母さんが「いたい」の事を「あが！」と言う沖縄弁を教えてもらいました。その後、おふろに入って今日はすごくつかれていたのですぐにねれました。すごくぐっすりねれました。

朝ご飯に私は初めてもずくを食べました。とろとろしていて、すごくはまりました。その後、役場に行くと中に彩夏ちゃんとポテトチップスを食べながら行きました。彩夏ちゃんのお父さんもお母さんもすごくやさしかったし楽しかったです。

最後に平和についてです。まず道の駅に行って基地見学をしました。しばらく見ていると戦とう機が飛びました。飛んだ時に龍紀さんの声が聞こえないくらい、ふだん声が大きいのに聞こえないぐらいうるさかったです。私たちが乗った飛行機より戦とう機の方がすごくうるさかったです。音を防ぐかべが、たったの5メートルしかなくて、かべで音を防ぐことはできないから、もっと高くしてほしいと思いました。

△上本部小学校児童との交流

次にひめゆりの塔です。防空ごうの中はすごく深くて暗い穴でした。あんなに大きくてアメリカ軍に見つからないのかなと思いました。

次に沖縄平和資料館です。そこには、戦争中のどうくつの中ですごくせまいのに、重いけがの人を一人か二人でしか手当てをしていなくて、小さい赤ちゃんもいてその時の食べ物がいも一つか二つぐらいで、すごく少なかったです。だからお腹いっぱい食べれる事はすごくありがたい事だと思いました。その後、戦争中の写真があって空が真っ黒でびっくりしました。

次に沖縄の自然です。蘭の花がすごく良いにおいでした。カカオの種がすっぱくて、これがチョコレートになると思いませんでした。他にも初めに思った事は気温です。外に出たら汗が一しゅんで出て、海がぬるくてお湯みたいでした。

今回の旅行で私はだれにでも親切にします。本部町の教育委員会のみなさんが飲み物やうきわを用意してくださいました。定塚さんや荒木さんが私達のめんどうを見てくれて私はすごく安心できたからです。これから親切にしたり、迷わくにならないようにするのが一番の目標です。

「沖縄で学んだこと」
北落合小学校　大道　隆弘

ぼくは、今回の沖縄県本部町親ぜん交流で学んだことは、沖縄での戦争のことです。それは、どんだけ悲しい出来事か、どんだけ大変な暮らしをしていたのかと心の中で思いました。平和の礎、平和祈念資料館、ひめゆりの塔の見学を通して出来事を実際に見て、聞いておどろきの連続でした。ひめゆりの塔では、沖縄で亡くなった人たちの名前がたくさん書かれていました。ぼくは、それを見てすごく残こくに思いました。平和祈念資料館では、戦争当時の記録を見ました。水のかわりにおしっこを飲んでいたと聞いて、ぼくは、本当に戦争で亡くなった人たちが悲しいと思いました。戦争は、ぼく達を悲しませるだけなので、けっしてやってはいけないことだと思いました。平和の礎は、そのようなみんなの願いをこめてつくられています。また、道の駅「かでな」では、アメリカ軍の基地を見ました。その大きさにとてもびっくりしました。でも、なんで戦争をしない日本にこんな大きなアメリカ軍の基地があるのか不思議に思いました。これからも時間があれば戦争のことについて調べてみたいと思います。

△平和の礎にて全員で平和を誓う

次に、沖縄で楽しかったことは、ぼくいの駅いずみでは、ハブショーを見ました。初めは、ハブがすごくこわかったです。上本部小学校と本部小学校での交流学習では、多くの人と話しが出来ました。ぼくの学校では、5人しかいないので、しばらくすごいなあと感心してしまいました。

やんばるガラス工芸館では、グラスを作りました。作っている時は、すごく暑くてたいへんでした。でも上手に作ることが出来たのでよかったです。